

All on 4 と併用した新しい概念に基づく 1 回法上顎洞底挙上術の有用性

○渡辺 孝夫^{1,2)}, 浅井 澄人²⁾, 清水 治彦³⁾, 飯村 彰¹⁾, 鈴木 精一郎³⁾, 岩野 清史³⁾
神奈川歯科大学大学院口腔科学講座¹⁾, 日本歯科先端技術研究所²⁾, 関東・甲信越支部³⁾

Usefulness of one stage maxillary sinus floor elevation using new clinical consideration with all on 4

○WATANABE T^{1,2)}, ASAI S²⁾, SHIMIZU H³⁾, IIMURA A¹⁾, SUZUKI S³⁾, IWANO K³⁾

Department of Oral Science, Graduate School of Dentistry, Kanagawa Dental Un¹⁾, Japan Institute for Advanced Dentistry²⁾, Kanto-Koshinetsu Branch³⁾

I 目的：我々はイヌ前頭洞を使った 1 回法上顎洞底挙上術 (SFE) 実験を行ってきた。その結果、補填材がなくても、増殖する新生骨造成量のピーク領域に HA インプラントを置くことで良好な OSS を示す新生骨が長期に渡って表面に残留することを観察した。また、昨年の本学会で動物実験の結果を概念として考察した術式で埋入したインプラント補綴が実際の臨床でも耐ええることを確認した。今回は、本術式と併用した Allon4 の 3 症例について、Allon4 における本術式の臨床的有用性を紹介する。

II 症例の概要：症例 715；42 歳，男性。170cm，71kg。平成 23 年 7 月 9 日初診。主訴，上の歯が動揺して食事ができない。口腔内，左上 2 5 7 および右下 7，左下 4 欠損。上顎の残存歯は高度の歯周病で保存困難，上顎臼歯部の骨量も少ないことから同年 11 月 26 日，上顎は残存歯抜歯，Allon4 と本術式を施し，同日，暫間上部構造を装着した。症例 791；52 歳，女性。163cm，48kg。平成 23 年 1 月 14 日初診。主訴，歯の動揺と義歯が合わない。口腔内，右上 5 7，左上 1 より 7，右下 2 5 6，左下 4 7 欠損，右下 4 7，左下 6 インプラント。上顎残存歯は高度歯周病で保存困難，上顎臼歯部骨量が少なかったことから同年 2 月 27 日上顎は残存歯の抜歯，Allon4 と本術式を施し，同日，暫間上部構造を装着した。症例 853；41 歳，男性。174cm，72Kg。平成 23 年 10 月 3 日初診。主訴，上の歯が動揺で満足に食事できない。口腔内，右上 7，左上 6 7。右下 6 4，左下 6 欠損，上顎残存歯は高度歯周病で保存困難，上顎臼歯部の骨量が少ないことから平成 23 年 11 月 26 日，上顎は Allon4 と本術

式を施し，同日，暫間上部構造を装着した。

III 考察および結論：本術式による補填材なし 1 回法 SFE は，術式も単純で骨補填材によるリスクが少なく，Allon4 で短所であった AP 比において P の割合が増加し，長期的に安定した咬合が得られる手法として，有用であると考えられた。

(治療はインフォームドコンセントを得て実施した。また，発表についても患者の同意を得た。本研究は倫理審査委員会 17000124 の承認を受けた。承認番号：007)